

堺市議会 議員 まとば慎一 市政報告



南区各所で大きな被害があった

台風21号の猛威
 南区においても多大なる被害があった台風21号。停電エリアが多々発生し、復旧に時間がかかり、また関連する情報もなかなか市民に届かない状況も発生しました。

堺市行政には、倒木などの対応で評価のお声も頂いたが、必要な情報の発信や対応、また支援策についての不備など、多くの課題についてお声も頂いています。関西電力と堺市との連携や堺市行政の体制強化など、今回の議会でも議論



アナログでの情報提供も必要
 まとば市政事務所の掲示板

が行われたが、一過性の議論で済ませるのではなく、今後の災害へ備えて継続して議論を行い、体制構築につなげていきます。また、日頃より頂いておられます様々な意見に基づいた質疑も会派として行っています。今後とも貴重なご意見賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

大阪維新の会

おさきいしんのかい

堺市議会議員

まとば 慎一

MATOPA JOURNAL Vol.10

温もりのある政治・行政を目指しています！

まとば慎一市政相談事務所
 〒590-0103 堺市南区深阪南342-12
 ☎072-230-1887
 www.ishin-matoba.com



One Osaka!

■ネットラジオ配信中！

聴きたい時に聴ける！まとば慎一のネットラジオ、Podcastにて配信中！iPhoneやiPadなどをお持ちの方はPodcastアプリからの場合一と検索頂けますと番組が出てまいります。アンドロイド機種、PCの場合はWEBサイトからお聴きできます。ゲストなどもお招きしてお送りしております。

的場慎一 検索



■SNS

SNSからも様々な情報を発信しています！



twitterアカウント

@matobashin



facebookアカウント

shinichi.matoba.9

■市政に関する相談やお問い合わせは

大阪維新の会

まとば慎一 市政相談事務所 まで！

〒590-0103 堺市南区深阪南342-12

☎ 072-230-1887

http://www.ishin-matoba.com/

■まとば慎一プロフィール

1969年生まれ 49歳。
 産業機械設計・アウトソーシング会社経営。
 ▶2008年 (社)堺高石青年会議所理事長
 ▶2013年 補欠選挙にて初当選。
 ▶2015年 統一地方選挙を経て現在2期目。
 日本教育再生機構大阪堺高石支部副幹事長。三原台在住。4人家族。

堺の依存症対策はいかに！

これまでの議会で私は依存症対策に取り組んできました。そんな中、堺市では本年の4月からいよいよ専門の相談窓口が設置されました。堺市の依存症の現状は、ギャンブル依存症、アルコール依存症ともに増加傾向。国は各地域において、総合的に依存症支援を行うための計画を作ることと求めており、その対象として堺市のような政令市も含まれている。医療機関、行政、関係団体との連携を行い、堺の現状に合った支援を強化



9月の健康福祉委員会で強く要求

していくため、堺市独自の支援計画を作ることが必要。私はこれまでの議会で、その依存症支援計画を作るよう求めており、今回も強く求めた。結果、この計画の早期策定に向けていきたいという意見を頂けた。今後も堺市の依存症支援計画策定に取り組んでまいります。

泉ヶ丘勤労者体育センターの跡地利用が決まる！

三原台の泉ヶ丘勤労者体育センターは長年に渡り、地域でも身近な施設でありましたが、施設は廃止となり、土地は大阪府へ返還されることとなりました。そこで2016年2月、跡地利用について地元の要望を画面上して大阪府庁へ持参し、安易に土地開発デベロッパーへ売却ではなく、地域と連携できるような形を取ってほしいと要望致しました。そこから2年以上継続して状況確認と要望を続けてまいりまして、今年



西林府議も一緒に

7月末にようやく東大谷高等学校と契約するに至り、新たな施設の地域利用についても協議が出来ることとなりました。

身を切る改革を継続

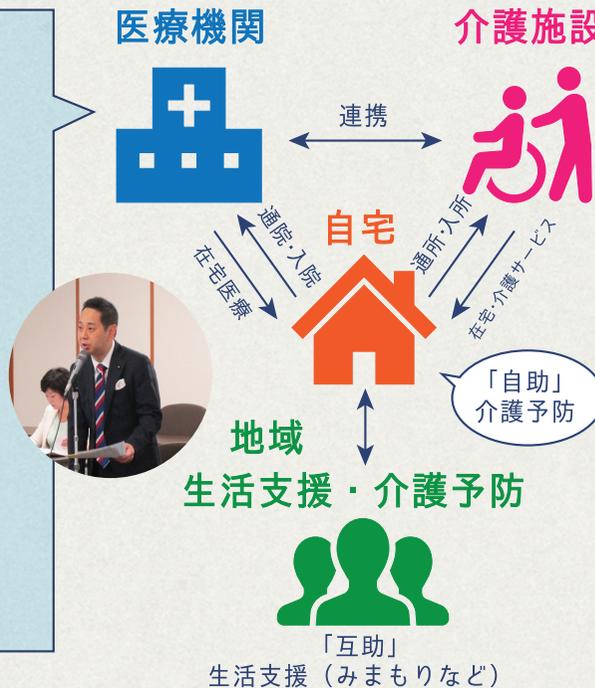
本来は堺市議会全体で報酬削減を行い、そのお金を堺市民のため有効な施策に重点し、大きな行財政改革の一步としていくのが維新の会が考える身を切る改革です。しかし、現状は議会全体の合意を得られないため、大阪維新の会堺市議団では自主的に2割の報酬削減を実践し、堺市民の想いとして被災地へ寄付を行っております。これまで熊本市、高槻市、茨木市、北海道へ「寄付させて頂き、総額2642万円となっております。今後も「身を切る改革」の目標に向かって議論を行ってまいります。

年齢を重ねても住み慣れた地域に暮らすために

まとば慎一
健康福祉委員会での質疑

質疑1 死ぬまで自宅にいたい

年齢を重ねても、住み慣れた地域に住んで、できる限り自宅で過ごしたい。
今後、超高齢社会になってもその願いを叶えていけるようにどうすればいいのかをテーマに質疑を行った。
南区においては近畿大学病院の移転があり、その近大病院と日頃のかかりつけ医さんや、地域医療機関とのネットワークを作って在宅医療をより高度なものにしていく事を求めた。結果、質疑ではネットワーク推進のために行政も動いていくとの答弁を得た。また、医療と介護の連携も必要で、住み慣れた地域で歳を取っても暮らしていける取り組みの必要性を意見した。市の当局からは連携構築に邁進していくとの答弁を得た。今後とも子供から高齢者まで幅広い世代に必要な医療ネットワーク作りについて取り組んでいきます。



質疑2 老人ホームってどうなってる?

目前に迫った超高齢社会に向けて必要になってくる特別養護老人ホームの数とその整備計画について確認。その根拠となる現在の待機人数も確認した。施設の整備は順調に計画されている。しかし、今ある施設において、ハード面ではなく、施設職員の人材不足によって入居希望者の受け入れができないという声も頂いている。介護に携わる人材確保ができなければ、新しく施設を建設しても、入所を希望する方を受け入れることができない状況になるため、早急な対策が必要。問題解決のため、役所内で関連できる所は全て連携し、取り組むことを求めた。そして毎年、人材確保の実績を報告できるようにするべきと意見した。
私からは堺市内で介護職の方が就職すれば何らかのメリットが出る施策について提案を行った。市からは、すでに堺市内で職に就かれている方にも利点のあるものを検討していきたいと答弁があった。今後も堺市には「取り組み」の報告から「実績」の報告がなされるように求めていく。

質疑3 無駄を省き、より市民の健康維持につながるように!

国民健康保険による健康診断の結果は病院からも堺市からも送られてくる。市民の方から同じ趣旨のものが2重に送られて無駄だとご意見も頂いた。堺市は2重ではなく、趣旨が異なると答弁があったが、その趣旨の違いを認識できない事業であることについて理解を示した。今後は市民の健康促進や介護予防に向けて、有意義な事業に変えていく事を求めた。もしくは事業そのものの是非について見直しを行う事も意見した。答弁として、今後この事業改善について検討していくとの答弁を得た。

値上げされた介護保険、運用はより厳正に!

介護保険料は値上げされ、今後も上がっていく時代背景にある。介護保険料は年金から天引きされ、その年金額も低下してきている。このような時代において、介護保険事業の内容、質の確保、お金の運用・管理について厳しい目が向けられている。事例を挙げながら、より一層の厳正さを求めた。

9月28日堺市議会9月定例会最終日 地域包括ケアシステム推進に関する条例が可決

そもそも
地域包括ケアシステムって?

今後、特に後期高齢者(75歳以上)が急激に増加することが予想される中、介護が必要となっても、今の自宅のままで住み続けたい、と願う高齢者が過半数を占めており、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域の特性に応じて医療、介護、介護予防、住まい及び生活支援が一体的かつ継続的に提供される体制を指す。